



Press-release/E-flashから

『ITUジャーナル』編集部

Press-release

① 8月29日：

世界中のICTリーダーがITUテレコム2006に集結
香港で開かれるITUの頂上世界イベントに來たれ
参加に必要な登録申し込みはお早く！

Leaders of the global community to gather at ITU
Telecom World 2006

Participants from across the world expected in Hong
Kong for ITU's flagship World event

Accredit now to be sure to be part of this crucial glob-
al event !

(出典：http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2006/14.html)

世界的な情報通信技術 (ICT) のイベント、ITUテレコムワールド2006が、ジュネーブ以外の都市として初めて、12月4～8日に中国・香港で開催される。シスコシステムズ、マイクロソフト、エリクソン、富士通、インテル、アルカテル、HP、クワルコム、サムスン、東芝、シーメンス、モトローラなど世界主要ICT企業のトップ、政策立案者、規制機関の要人が参加し、ICTを発展させていくためのアイデアや方策について語り合う。今回のテレコムでは、“デジタル社会に暮らす、Living the Digital World” のテーマの下、世界中にある文化、教育、学習に関する膨大な知識情報にアクセスするための方法として、デジタル資源共有化の概念を明らかにするとともに、最新技術やサービスの展示、ビジネスのためのピレッジ、内容の充実したフォーラム、ユースフォーラム、電気通信の発展に向けたシンポジウムなど多数の提携機会の提供や催し物が予定されている。デジタルワールドがどんなものであるかを予見させる “デジタルライフシアター” も見ものである。フォーラムでは、シスコシステムズのJohn Chambers CEO、アルカテルのSerge Tchuruk会長兼CEO、NECの矢野薫社長、アクセンチュア通信部門のDan Elron マネージングパートナー、KDDIの小野寺正社長、欧州委員会のVivian Reding情報社会&メディア委員らがキーノートスピーチを行う予定である。600の出展企業、160か国から5万人の商談者、150か国から2000人のVIPの参加が見込まれている。ジャーナリスト、企業アナリスト向けの認定申し込

み、一般参加者の登録申し込みがオンラインで可能である。

② 9月6日：

求むタイムマシン：ITU TELECOMは、デジタルの将来を予測するコンペを開始

Time machines wanted：ITU TELECOM opens competition to predict the digital future

(出典：http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2006/15.html)

ITU TELECOM WORLD 2006では、将来のデジタル社会の姿を予測する“デジタルライフシアターコンペ”が行われる。このコンペに参加したい人は、自分が思い描く将来のデジタル社会の姿を2分間のDVDにまとめ、2006年10月15日までに、ITU TELECOMに送付してほしい。コンペには、家庭のデジタルライフ、職場のデジタルライフ、メディアと娯楽のデジタルライフ、社会のデジタルライフの4部門があり、各部門の最優秀作品は、香港で2006年12月4～8日に開催される展示会ITU TELECOM WORLDの中核であるデジタルライフシアターの大画面で放映される。このイベントには、世界の主要なICTメーカーが参加予定であり、参加各社は、知名度の向上、独自性のアピール、新しいビジネス、投資家、パートナー、及び産業界の注目を引き付けることができる。コンペ詳細は、下記URLを参照のこと。

(http://www.itu.int/WORLD2006/pdf/Competition_Overview.pdf)

E-flash

③ ITU-D e-Flash Issue 22 (8月22日)

(出典：<http://www.itu.int/ITU-D/e-flash/2006/august.html>)

- ・ブータンの過疎コミュニティが情報社会に仲間入り
Rural communities in Bhutan join the information society
ITUとブータンの国内通信事業者ブータンテレコムは、協



力してDagana州の10の過疎地域でVoIPサービスを使えるようにした。ITUは、テレコム余剰基金からUSD413,500を提供するとともに、システム設計の専門家による技術支援を行った。州都のThinpuでは2006年6月以来、村民、学校や公共機関がVoIPサービスの使用を開始し、公衆電話も設置されたことにより、住民は従来のように電話をかけるために何キロも歩く必要がなくなった。

・可搬型衛星サービスでITUとThurayaが協力

ITU partnerships with Thuraya to provide satellite services to mitigate disasters

本記事の内容は、本誌9月号 (Vol.36, No. 9) P. 26に掲載されているので、ここでの掲載は割愛する。

・被災した通信ネットワークの復興計画のための訓練と衛星地図の提供をITUが開始

ITU provides satellite imagery and training to Indonesia for post-earthquake disaster telecommunication network planning

2006年5月27日にジャワ島を襲ったマグニチュード6.3の地震を受けて、ITUは、UNOSAT (国連衛星プロジェクト)の協力の下にインドネシア政府を支援して、衛星地図とその解読技術の提供、並びに通信ネットワーク復興のための計画とその実現方法、ネットワークの強度向上に関する訓練を始めた。この支援業務は、ITUが進めている防災、災害復興に関するイニシアチブの一環であり、インドネシア政府との緊密な連絡の下、地震発生の情報を受けて直ちに支援が開始された。

・リベリア帰還民がITU/UNHCR ICT訓練センタを卒業

Liberian returnee graduate from the ITU/UNHCR training center

本記事の内容は、本誌9月号 (Vol.36, No. 9) P. 26~27に掲載されているので、ここでの掲載は割愛する。

・若人教育プロジェクトが前進

YES to the Youth Education Scheme!

本年も、全世界からの19人の若者にYES奨学金 (Youth Education Scheme: 若人教育プロジェクト) が授与された。本奨学金はITUが2003年に始めたもので、ITUがノキアやアルカテルなどの協力の下に、ベニンやブータン、ボスニアへ

ルツェゴビナなどの後発途上国の若者が学業を完遂しICTの知識を身に付け祖国や社会に貢献できるように支援するものである。

・中米諸国とドミニカ共和国がCOSITUを料金計算参照モデルに採用

Central American countries and the Dominican Republic adopt COSITU as a reference cost calculation model

COSITU (calculation of costs, tariffs and rates for telephone services: 電話サービス用通話料金計算手法) に関する訓練ワークショップが中米諸国を対象に2006年7月にニカラグアのマナグアで開催され、固定通信事業者と移動通信事業者から42名が参加した。このワークショップの成功を受けて、COMTELCA (Central American Telecommunication Commission: 中米電気通信委員会) は、COSITUを料金計算の標準モデルにすることを決定した。

・アフリカ仏語圏諸国の規制当局者向けアマチュア無線及び緊急通信に関する訓練が開かれる

Training for regulators on amateur radio and emergency telecommunications for the French-speaking African countries

アマチュア無線管理に関する訓練コースが、ITUと国際アマチュア無線連盟、ダカール高等通信学校の協力の下、2006年7月24~27日にかけてセネガルのダカールで開催された。ITUの無線規則ではアマチュア無線とアマチュア衛星サービスのために周波数が割り当てられており、これは災害時などにおける貴重な通信資源となっている。この訓練コースは訓練指導者を育成することを目的としたもので、ITUと規制の歴史や通信モード、周波数配分に加え、災害時の緊急通信に重点が置かれた訓練が行われた。

・アフリカ通信規制フォーラム (FTRA-2006) でアフリカ規制機関の直面する課題を議論

The 7th Forum on Telecommunications Regulation in Africa (FTRA-2006) emphasizes challenges for African regulators

アフリカ通信規制フォーラム (FTRA-2006) が、“IP網と関連サービス: アフリカ規制機関にとっての課題” というタイトルで2006年7月7日と8日にカメルーンのヤウンデで開催



され、23か国から83人が参加した。フォーラムでは、IPと関連サービスを視野に入れてICTの法的、規制上の課題の見直しの必要性を議論し、さらには汎アフリカ規制機関協会を設立し、アフリカ全体としての方針決定ができるような仕組みを作ることで合意した。

・アンデス諸国におけるブロードバンドアクセスの拡大をITUが支援

ITU helps expand broadband access in the Americas Region

ITUとアンデス地域通信事業者協会（ASETA）は協力して、アンデス地域におけるブロードバンド拡大に関する調査を行った。調査はブロードバンド拡大に必要な技術的支援や規制条件を中心に行われた。調査結果は、2006年9月27～29日にエクアドルのキトーで開催されるワークショップで報告される。

・中東欧、CIS諸国及びバルチック諸国における通信自由化に向けて

Towards telecommunication liberalization in the CEE, CIS and Baltic States

ITUはモルドバ情報開発省ほかとの協力の下、2006年20～22日にかけて“通信自由化 — 中東欧、CIS諸国及びバルチック諸国にとっての機会と課題”と題したセミナーをモル

ドバのチシナウで開催した。セミナーは、規制機関としての役割や能力開発、ネットワークやサービスの相互接続などに焦点を当て、オンラインツールであるところのITU-infoDev ICT Regulation Toolkitを使用した。15か国から104人が参加した。

・アラブ地域の過疎地のためのブロードバンドワイヤレスアクセスシステム

Broadband wireless access solutions for rural areas in the Arab Region

2006年7月19～22日にかけて“アラブ地域におけるブロードバンドサービス用モバイル及び固定ワイヤレスシステム”と題した地域セミナーがITUとアルジェリアテレコム協力の下にアルジェリアのアルジェで開催され、産業界、政府、規制機関及び市民団体から250人が参加した。参加者は、過疎地におけるブロードバンドワイヤレスシステムの有用性を認識するとともに、現在、各国で異なった周波数が付与されていることについて、最適な周波数分配について指針が必要なことで一致した。

・ITU-Dのセクタメンバー数が334に

ITU-D Sector Members now number 334

2006年1月以来22の新規メンバーが加わり、ITU-Dのセクタメンバー数は334となった。